

継続観察の重要性と面白さ

『樹木博士入門』利用のすすめ

-樹木観察の面白さ (5)-

八田洋章先生

芽生えから成木に至る樹形の形成過程に興味を持ち、枝の伸びかたなどの観察を長年続けている。樹形研究会代表。国立科学博物館名誉研究員。農学博士。神奈川県博友の会の講座と観察会、筑波実験植物園のセミナー講師などを継続中。本書の全般にわたって校閲いただく

このレポートで掲載した写真と図はすべて自然観察大学とその関係者(禁無断転載)

● 樹木観察のためのくふうが紙面にあふれている

すばらしく魅力的な1冊が刊行されたこと、おめでとうございます。

そしてその制作過程で少しからませていただいた一人として、たいへんうれしく思います。

私はこの本を原稿段階から拝見しているわけですが、感心させられたのは、観察のためのくふうがていねいに盛り込まれていることでした。これから植物を学ぼうとする人たちに、あるいはもっと植物を勉強したいという人にとって、興味深く利用してもらえそうです。

● 本の柱は「形とくらし」

吟味された内容と、それに沿って撮影されたたくさんの写真とが一体となって、樹木を理解するための効果的な紙面をつくっています。

このことは、この本をご覧いただければ、すぐに伝わってくるでしょう。

ふだんよく目にする切り株や樹皮、扁平なヤマナラシの葉柄に注目するなど、一般には見逃されがちな疑問にも、話題を深めてていねいに解説されています。

この本の目指す「木の形とくらし」の視点ですね。

本書の大きな柱でもあります。



『樹木博士入門』p48-49

● 木と生き物とのかかわり、人とのかかわり

私はちょっと斜めに構えて、いくつかの事例を紹介しましょう。

本書のもう一つの柱は、木と他の生き物、木と人とのかかわりです。

どんぐりとチョッキリムシの関係や、エゴノキとエゴノネコアシのような、木と虫たち（あるいは鳥たち）とのかかわりにも注目しています。子供たちの関心を引き出すためには格好の話題と思えます。

コウゾと和紙、スギと線香、キリと下駄、ウルシと漆器など、人間生活に深くかかわってきた「木の文化」にも十分配慮されています。従来の植物図鑑で最も欠けている視点だと思います。個人的に、私が殊に楽しかった部分でもあります。



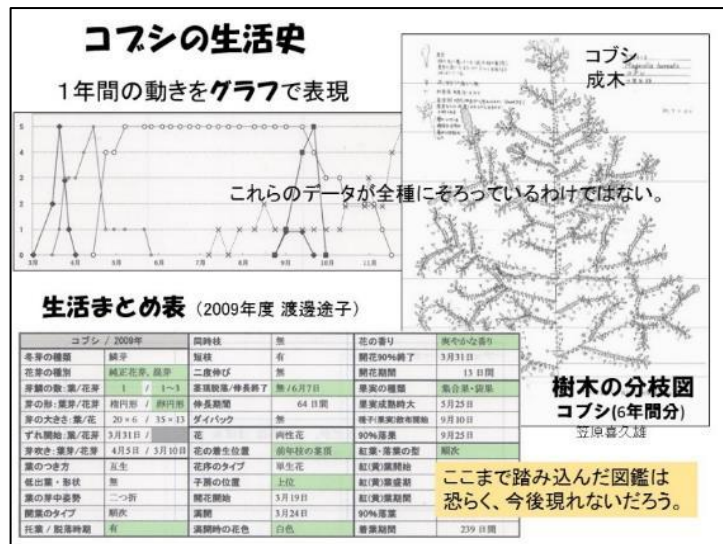
『樹木博士入門』p106-107



『樹木博士入門』p178-179

● 進行中の『樹木の生活史図鑑』(仮称)

さて、私たちの方でも『樹木博士入門』とほとんど同じコンセプトの書籍が仕上がりつつあります。『樹木の生活史図鑑 -フェノロジー記録 600種』(仮称)という本で、樹形研究会のメンバーおよそ40名が、長年の観察結果を自身の手でまとめたものです。みなさんよく勉強されました。それぞれの種ごとに「種のあらまし」「描画と写真による生活史」「通年観察の記録」「生活史のグラフ」「生活史のまとめ表」「枝分かれ図」から構成されています。



『樹木の生活史図鑑』の草稿(コブシの項の例)

樹形研究会のメンバーが、観察眼を養いながら、そして文章表現に悩みながら、四半世紀以上もがんばってきた結果です。みなさんの協力がなければここまで踏み込んだ図鑑はできなかつたし、おそらく今後もできないと思います。

『樹木博士入門』と『樹木の生活史図鑑』(仮称)、両者のねらいはほとんど同じですが、利用者には違いがあるでしょう。前者はりっぱな普及書であり、より多くの人に利用されるはずですが、後者はそうはいきません。利用者層も異なり、お互いに補完しあうものと思います。

これから樹木の勉強を始めよう、あるいはもっと知りたいという方に『樹木博士入門』はきっと役立ちます。広くご利用いただけます。

そして近刊予定の『樹木の生活史図鑑』(仮称)もどうかよろしく願いいたします。

.....

八田先生には、お忙しいところお越しいただいた上に、持ち時間 10 分で講演をお願いしました。八田先生にとって 10 分の講演を頼まれたのははじめてだそうです。かってな、そして不遜なお願いをして申し訳ありませんでした。ありがとうございました。